

## 検査・計測への期待



株式会社 IHI 取締役 常務執行役員  
エネルギー事業本部長

橋本 伊知郎

Ichiro Hashimoto

IICの皆さん、エネルギー事業本部長の橋本です。日頃からIICの皆さんがエネルギー事業の中核を担う検査・計測を中心とするさまざまな分野で真摯に努力され、立派な業績を上げられていることに敬意を表します。

本誌「IIC REVIEW」は先号で発刊20周年を迎えられました。心からお喜びを申し上げます。これを期に、世界に飛躍するIICとして気持も新たにスタートされることを祈念しております。

さてIHIを取り巻く環境は以前にも増して厳しいものとなり、昨年度(平成20年度)決算も大幅に下方修正する事態となりました。

振り返ってみますと一昨年、エネルギー事業を中心として展開していた海外プラント事業の失敗から巨額の赤字を計上し、皆さんには大変なご心配とご心痛を与えてしまいました。そして昨年度は再生プランを策定し実行することで黒字化を目指したものの依然として事態を好転させることができず、自身の不甲斐なさに加え、関係会社の巨額損失引き当て、サブプライムローン問題に端を発した世界同時不況の只中に巻き込まれ、大きな為替差損を被り、またもや損失を計上せざるを得ない状況となりました。まことに残念です。

このような厳しい景気後退局面の中で、総崩れと言われる、電気・自動車メーカーの中にもしっかり利益を確保している企業があります。製品・事業の差別化・選択と集中・品質・コスト削減に妥協なく取り組み、油断しなかった企業です。IHIが現在直面している苦境は一夜にして突然出現したわけではありません。

長い時間を掛けて少しずつマグマが地表に向けて上昇していることに気付かなかつた。小さな変化を見落とし、無視してきた、あるいは甘く考えていたことにあるのです。重工業界は景気変動の影響を受けるのが他業界よりも遅れることを我々

も経験しており、今後、今回の世界同時不況の影響によりIHI(グループ)は退場を余儀なくされる可能性さえあります。

このような事態はなんとしても避けねばなりません。事業再生に向けて本気で取り組まねばなりません。平成21年度は不退職の決意をもって具体的で強力な対策を実行します。全員の納得が得られない場合や、摩擦が生じる可能性もあります。しかし常に全員が納得する楽(らく)で楽しい改革などありえないのです。

話題を少し変えましょう。検査・計測の世界では昔は直接見る、触る、測る、破壊して試験片を切り出して調べるなどの方法が主流でした。しかし、現在ではさまざまな分野で直接見えない、触(さわ)れない、測れない対象を正確に調べ評価するニーズが飛躍的に増加しています。高温、放射線、汚染、構造的にアクセスできない、そんな状況でも小さな変化・欠陥を見落とさない、適切な評価とアドバイスを通じて対策を講じる手助けをする等、従来のいわゆる検査・計測の範疇を超えるサービスの提供がますます求められます。

特に近年、検査技術そのものも勿論ですがその結果をどう解析、評価するか?を求める傾向が強くなっています。お客様は検査・計測結果のみならず「それでどうしたら良いのか」まで含めて期待されています。IICはこれらの分野でも世界のトップクラスの技術と熱意を持って取り組んでいます。大変うれしいことです。

一人一人の一日一日の積み重ねがIHIグループの業績となります。IICの皆さんがIHIグループのみならずグループの枠を超え、検査・計測技術とその応用技術を持って社会に貢献する企業として世界で活躍されることを期待しています。